

令和2年度事業報告書

一般
社団法人 石川県自動車整備振興会

1. 事業の概要

昨年、年明けからの新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、大きな振幅を伴いながら、厳しい状態が続きました。わが国の経済においても消費税引き上げの影響が徐々に和らぐ中で、個人消費など持ち直しの動きもみられていたが、その後、内外での新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、情勢は大きく変化し、景気は厳しさを増すこととなり、日本のみならず世界の経済活動はリーマンショックを上回る規模で停滞することとなりました。特に観光業、飲食業などは緊急事態宣言後、壊滅的なダメージを受けて企業存続の危機にさらされているところもあります。一日も早いワクチン接種、コロナウイルスの収束と新たな経済対策を願うところでもあります。又、令和2年7月に56年ぶりとなる東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定でありましたが、1年間の延期を余儀なくされました。第4波による変異株新型コロナウイルス感染症が拡大される中、令和3年開催が予定されています。

このような中、自動車整備業界では、新型コロナウイルス感染拡大対策として自動車検査証の有効期間の伸長が行われ、感染症拡大による直接的な影響は少なかったものの、少子高齢化による自動車整備士不足、後継者不足並びに交通事故の減少や高齢化社会における移動手段を踏まえた自動運転化、排出ガス削減に向けた電動化等への対応が求められています。

また、4月に道路運送車両法が一部改正され特定整備事業制度がスタートし「電子制御装置」の認証取得が進んでおります。

全国の自動車保有台数は、平成18年度までは一貫して上昇を続けていましたが、リーマンショックを契機に平成22年度まで減少したものの、以降エコカー補助金等の施策もあり、ハイブリッド車、軽自動車・コンパクトカーを中心とした新車販売が好調となり、再び保有台数は増加に転じ、令和2年3月末で8,185万台、県下では令和3年3月末で906,949台(軽二輪車除く。)、対前年100%(425台増)とほぼ変動はありませんでした。また、車検の原資となる新車販売台数は、全国で4,656,632台(92.4%)、県下では49,452台(88.7%)、うち登録車は昨年より4,945台少ない30,701台(86.1%)、軽自動車でも1,373台少ない18,751台(93.2%)と全国同様に新型コロナウイルス感染の影響拡大により春先からの新車供給が停止したことで、前半は大きく落ち込み10月から回復基調が見られたものの減少となりました。

継続検査等の台数は、回り年の影響を受け9月までは対前年を下回る状況が続きましたが、10月以降は対前年を上回り、約10,000台多い411,800台(102.7%)となりました。

一方、総整備売上高は、令和2年度自動車特定整備事業実態調査によりますと、5兆6,561億円、前年と比較すると345億円増(0.6%増)となり4年連続で増加となりました。業態別では、専・兼業が376億円増(1.4%増)、ディーラーが77億円増(0.3%増)となり、両形態とも増加しました。尚、整備要員1人当たりの年間整備売上は14,284千円、対前年度118千円増(0.8%増)とこちらも4年連続で増加した。

このような状況のなか、各事業において次のように展開いたしました。

業界の振興・活性化対策では、ユーザーにクルマの確実な点検整備を通して安全・安心を提供する整備付車検についてユーザー車検・代行車検、非会員事業所との差別化をマスメディアを活用して呼び掛け、また、1年点検需要掘り起し事業の「マルであんしんキャンペーン」では、点検・整備の必要性和励行を豪華景品プレゼントの当会加盟店での実施を呼び掛け展開しております。

若年労働力の確保については、当会は構成団体の中核となる石川県自動車整備人材確保育成連絡会として、本年も運輸支局と同行し能登地区の県立・私立高等学校11校を訪問し、学校長・進路指導の担当教諭に生徒への整備業界(自動車メカニック)を就職の選択肢に加えていただくよう要請して、整備業就労への後押を行って参りました。

業界の健全化対策では、不正改造車排除運動の期間中に不正改造車排除マニュアルを全事業場に配付、不正改造車の撲滅と事業所への法令遵守並びに情報提供を呼び掛け、全国展開する不正改造車排除運動に寄与しました。

自動車使用者対策として、ユーザーに自動車の点検・整備の必要性和自己管理責任の重要性について理解を深めてもらうため、恒例の自動車点検フェスティバル「セーフティCarにぼる石川2020」を開催、自動車カットエンジン、自動車の新旧部用品等の展示と日常点検の実施方法を教示する等して車の保守管理と点検整備の必要性の啓発に努め、また定期点検入庫促進のため業界のイメージコマーシャルにおいて、民放テレビ・ラジオを利用して点検整備の実施により「燃費向上と二酸化炭素排出量も抑えられエコが広がります」とのキャッチフレーズにて点検整備の励行を訴求したほか、県下主要道路9箇所に大型野立て看板により、点検整備の励行をPRしました。

整備技術向上対策では、高度化している環境対応車、更には先進安全自動車の技術に対応した教育では、整備主任者技術研修の中にスキャンツールを活用したエーミング作業を取り入れ並びに「電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習・実習」を組込、1,086

名に実施しました。

さらに、「電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習実習(ADAS 講習)」を 301 名に対し追加実施しました。

又、整備主任者法令研修及び自動車検査員研修に「電子制御装置整備の整備主任者等資格取得講習学科」を組込、2,592 名に対して実施し、資格取得試問に 2,159 名受検、2,014 名の方が資格取得いたしました。

整備士等養成課程では、前期に予定していた 2 級ガソリン自動車整備士、自動車車体整備士及び自動車検査員教習が緊急事態宣言発令により急遽中止となりましたが、後期には 3 級自動車ガソリンエンジン(三級基礎含む)及び自動車検査員教習を 110 名に対し資格取得の養成を行ないました。

全国大会予選を兼ねた石川県自動車整備技能競技大会を 10 月 18 日の開催を予定しておりましたが、令和 3 年に予定されていた全国大会が東京オリンピック・パラリンピックの延期の関係で、令和 4 年秋に延期されることから来年度に延期とさせていただきました。

環境保全・省資源及び法制・税制対策関係では、事業場の環境対策の推進として環境に優しい自動車整備優良事業場表彰制度において、二酸化炭素の排出量の把握並びに削減、また事業所内のすべてに環境保全・資源保護に取り組む状況が審査され、すべてにおいて網羅されている事業場に対して北陸信越運輸局長表彰、石川運輸支局長表彰として陸運関係功労者表彰式の環境対策優良事業場の中で執り行われ、局長表彰 2 事業場、支局長表彰 1 事業場が受賞されました。

この他、福利厚生事業の一環として事業主・従業員を対象とした健康診断を県下 7 会場(8 日間)にて診断車両による巡回検診を実施し 154 社、673 名が受診。尚、会員相互の親睦と情報交換の場として全支部参加のもとで実施している親睦ボウリング大会はコロナウイルス感染症防止対策により今年度は中止といたしました。

組織運営対策では、理事会・委員会等諸会議が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面とするなど定款並びに法令に基づき適切に開催してまいりました。

以上、遂行にあたり行政機関と会員各位のご理解・ご協力に感謝申し上げます。